

本日の登壇は5人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） おはようございます。入江有紀と申します。

一般質問に入ります前に一言、皆様に、市長なんですけど、お願いがあるんですけど。私は職員の挨拶問題をずっと何回か言ってまいりましたが、私、1週間前に本庁に行きました。行って階段を下りよったんですけど、下から上ってきた職員が知らん顔してどンドンすうすう上って行ったんです。それで、呼び止めて名前を聞いて、事情を聞いたんですけど、セールスマンと間違えていましたと言われました。私をセールスマン。それで、19人のうちで私、女性1人なんですけど、やはり私の顔が分からない職員もいるみたいで、もう少し、幾らセールスマンでも市民には変わらないんですから、挨拶ぐらいはもうちょっとできるようにしていただきたいんですけど、よろしくお願いいたします。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

女性の貧困について。子供の貧困について。現在、子供の貧困は何名か把握していますか。女性の貧困も把握しておられますか。貧困に対して、行政はどのような対応をしてありますか。

2番目に、介護施設の整備についてですけど、第9期介護保険事業計画で300人以上の入居待ちに対して、どのような施設の整備を予定されていますか。

3番目に、定住者支援住宅についてですが、移住者が来たくても住むところがない状況ですが、現在の9戸から増やすことはできないのでしょうか。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。入江議員の御質問にお答えいたします。

まず初めに、職員の挨拶の問題でございますけれども、職員が議員をセールスマンと間違えたというようなことでございましたけれども、議員、言われるようにセールスマンであれど挨拶はするように、今後、注意を促してまいりたいというふうに思っております。申し訳ありませんでした。

それと質問ですけれども、通告では、1問目のコロナの第8波の対応についてという内容が来ていたんですけども、先ほどの質問では、これはもう消されたんでしょうか。ね。（「はい」と呼ぶ者あり）ああ、そうですか。このことについてはもう答えないということで2番目からの子供の貧困、女性の貧困についてということでございますけれども、市の取組としましては、生活困窮者に対する支援を行っておりますので、困窮ということで答弁をさせていただきます。

令和4年12月末におきまして、生活保護世帯で18歳以下の子供がいる世帯は、25世帯43人となっています。また、生活困窮者自立支援事業におきまして、生活困窮相談を受けてい

る世帯のうち、18歳以下の子供がいる世帯は、7世帯13人となっております。

生活困窮者自立支援事業の一つとして、生活困窮世帯の子供が抱える課題を解消し、学習機会の提供により学力を向上させ、困窮の負の連鎖を断ち切るための子どもの学習・生活支援事業として実施をしております。

この事業は、学童や学習塾へ通う子供、1人当たり月額1万円を上限に支援を行うものでございます。

生活困窮者自立支援事業では、子どもの学習・生活支援事業のほか、自立相談支援事業、就労準備支援事業、住居確保給付金事業、一時生活支援事業、家計改善支援事業等の支援を行っております。

女性の困窮に関する相談につきましては、今までありません。

次に、第9期介護保険事業計画策定における施設整備についてでございますけれども、まず介護施設の整備につきましては、昨年、第1回以降の定例会での一般質問の際に、次期以降の介護保険事業計画策定における施設整備については、将来的な高齢者の人口推計、介護サービスの需要等を精査しながら整備が必要と判断した場合は、将来、安定した介護保険事業の運営及び現在の介護サービスを継続して供給できるよう慎重に判断していきたいと答弁をしております。

現在、計画策定に向け施設整備等を含めた検討をしております。具体的な内容については、介護ニーズ調査や実態調査を行い、現状の課題や将来的な人口推計、安定したサービスの継続及び整備することによる介護保険料の負担などを含め、分析、協議を行い、総合的に精査いたします。その後、計画策定委員会等で意見を求めた上で、令和5年度中に計画を策定することとしております。

地域密着型サービスの整備等が必要と判断した場合は、第9期介護保険事業計画で位置づけし、県へ施設整備事業実施協議書を提出し、助成額を確保した上で、令和6年度以降サービス事業者の公募を行い、事業者の選定を行うとしております。

次に、定住支援住宅についてでございますけれども、定住支援住宅は本市へ定住を目的とした移住者の生活基盤の確立を支援するとともに、移住直後の負担軽減を図るため貸与期間を2年間とし、定住に向けての住居探しのために役立てていただいております。現在、市内に9世帯分を確保している状況であります。

現在の入居状況は、巖原町久田に2世帯、上対馬町比田勝に3世帯が入居中であり、久田1世帯、仁位1世帯は入居予定、他の2戸については入居者募集中でございます。移住相談会においても民間の不動産情報も少ないこともあり、住まいについての相談は多く、特に知り合いのいないIターン者等にとりましては、住居確保が難しいことは十分承知しております。生活の根幹となる住居対策は移住施策の最重要課題であると認識し、国、県の公舎、施設など住居として活用

可能な施設の情報収集、調査を既に実施しております。今後におきましても、さらに県との協議を行い、定住支援住宅の整備・拡充に取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 子供の貧困問題なんですけど、現在、私の調べによると、579人の貧困の子供たちがいるんですが、それで、一応、長崎県の貧困率というのは、5人に1人の貧困率なんです。貧困数は全国で268万4,204人、7人に1人なんですけど、長崎県の場合は、一応、5人に1人ということで、579人になります。

それで、このことは、子供の貧困は私たち大人にも物すごい影響を及ぼすと思うんですけど、30年後の社会を回していくのはこの子たちなんです。だから、子供たちが元気で頑張ってくれば、これからの私たちの老後も大丈夫なんですけど、この問題はちょっと大きな問題で。

私たち、一応、こども食堂を始めて3年目になるんですけど、子供の貧困が目に見えて分かってくるんですよ。何でかという、靴を、小さくなって後ろを踏んで履いた子とか、それから、この前は鍋を全部でしたんですけど、その鍋を見て高校生の子が、鍋というのは、一応、テレビでは見たけど、実際にはこんなのが鍋なんです。その言葉自体が私たちボランティアの胸に何か突き刺さって、そういう貧しい生活をしている子がまだ多いんですよ、対馬にも。だから、そんな子たちを選んで、できるだけ調べて、そして救うてやりたいのが私たちの考えなんですけど、どうにかして、市として貧困者、貧困の子供たちを救う、見つけて救うようなことはできないものでしょうか。

それと、一応、500人ぐらいおるんですけど、それと母親なんですけど、生理用品が買えない人とか、そんな人がかなりおるんですよ。だから、私たちはこども食堂にいただいた寄附金で靴を買ってあげたり、お米を渡したり、今のところしているんですけど、もうちょっと市がその人たちを把握して、救うてやることはできないものでしょうか。市長、御答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 初めに、入江議員の調査では579人ということでございますけれども、担当課が調査したところによりますと、生活困窮相談を受けている中での支援数が児童生徒で、小学生、中学生、高校生、それぞれ76人、19人、7人の102人でございます。こういう方が生活困窮相談をされた中で支援をしているということでございます。

それと、議員の御言葉の中では貧困という言葉がございましてけれども、貧困と困窮とはどのような違いがあるかということをちょっと説明させていただきますが、まず、貧困とは、お金がなく、貧しくて生活に困っていることと定義されております。一方、困窮とは、食べ物や家など生活に必要なものが足りず、また、解決策を見いだせず困り果てることということになっております。

す。よって、貧困より困窮のほうが困っている度合いが強い状態をいうようなことが定義されておりますので、私、先ほどから困窮ということで、市のほうも困窮相談ということで相談を受けておりますので、そういう説明をさせていただきました。

それとまた、市のほうにそういった支援をというようにございませうけれども、まずそういった相談をどうかしていただいて、声をまず届けていただきたいと思います。

この困窮相談等については、こちらからなかなか調査をして、あなたは生活困窮ですからとかそういうことはなかなか言えないのではないかなというふうに私、認識しております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） よその市では今、女性活躍推進交付金というのが国から700万出ているんですよ。それを利用して、相談所を設けているんです。それは大村市がやっているんですけど、大村市を調べたら分かる。大村市まで行ってきてから、全部調べてきたんですけど、700万の国からの交付金をいただいて、そして相談所を設けて、女性とか子供たちの貧困をずっと相談を受けて、お米を配るとか食材を配るとか、いろいろ着る物を買ってやるとかそういうことをしているんですが、女性の場合は、生理用品や何かをそこでつくって、そして渡しているんですよ。だから、大村市のやり方をお聞きしたら、補助金が700万出るんです。だから、この700万を利用して相談所をつくれれば相談に来やすいと思うんですよ、お母さんも子供も。だから、そういうところをつくってやれば、貧困の人たちにもだんだん分かってくるんじゃないかと思うんですけど。

市長が今、言われましたけど、貧困というのは、お金がない、人とのつながりがない、それから自信がない。それを貧困というんですけど。やはりそういう人たちを救うにはそういう相談所、入りやすい、行政じゃなくて民間に委託して入りやすい相談所を設けてやって。だから、大村市を聞いてみたら、今それをずっとやってあるんですよ。だから、その700万の補助金を国からもらって民間に委託して、NPOか何かにして、してあるみたいだから、それ非常にいいことだと思うんですよ。そしたら、何の相談も受けるから全部、お米を持たして帰りたい、この人はお米がないとか、この人は生理用品とか、いろいろそんな感じにしてあるみたいなんですよ。だから、対馬市もこの補助金を利用して、そういう相談所を設けてもらうわけにはいきませんか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 今、議員が言われました大村市の事業について、私は把握してはおりませんが、対馬市におきましては、保護課内におきまして、生活困窮者支援事業というのに取り組んでおりまして、そこで相談を受け付けております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） その話を聞いてみたんですけど、行政のしてあることは行政にはなかなか相談しにくいそうです。それで、あんまり活躍していないと思うんですけど、どのぐらいの人数が相談に来てありますか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 生活相談支援事業での相談件数は、令和4年12月末現在におきまして105人、105件の相談を受けております。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 女性の相談も受けていますか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 相談の理由が、例えば、収入の減少ですとか、不登校、家族の病気とかでございまして、女性に特化した相談というのはあっておりません。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 子供の貧困を救うには、やはり行政には相談に行きにくいと思うので、大村市みたいに700万の補助金をもらって、国から、そしてNPOか何か任せ、そして相談を受けて、いろんな困窮者とかのあれを救い出して、救ってやったほうがいいと思うんですよ。それがやはり子供たち、2年、3年目に入ったんですけど、こども食堂を始めて。最初よりかだんだんもう子供たちの数が増えて、やはり私たちが配達を、大体、10時半ぐらいに持って行くんですけど、車の音がしたら飛んでくる状態なんですよ、みんなが。だから、もうちょっと私たちも今、巖原しかないから、美津島、豊玉、巖原、ずっと全部6か町に設けてやっつくってやりたいんですけど、それができないから、こんな相談所を設けて、お米とかの配付とか、一応、食材の配付とかそんなのをしてやりたいんですが、これが700万の女性活躍推進交付金を申請して、事務所を設けるようなことはできないでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 確かに、支援を受けることに引け目や罪悪感を覚えて、困り事を口に出せない人もいます。支援が必要な人がその必要な支援に関する情報を的確に入手できるような相談体制は今、保護課のほうで整えておりますので、そちらのほうを活用していただきたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） そしたら、この女性活躍推進交付金というのは、しないということですか。補助金の申請は。でも、こんないい国の補助金があるんですからこんなのを活用して、子供達の貧困とか、女性の貧困を救ってやりたいんですけど。田舎のほうはそんなにないんです

よ。美津島、巖原が多いんです。それで、できるだけこの交付金を申請してもらうわけはいきませんか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、そういった必要であるということであれば、民間事業所じゃなくて保護課のほうでも十分にできるものというふうに思っております。

ただし、そこでまず相談を受けていただくことが先決なのかなというふうに私は思っておりますし、この生活困窮者と判断をして、そういったいろいろな助成をしていくときの基準と申しますか、そこら辺をどういった形で設けていくのかなということは、今後、また検討が必要になるかとは思っております。

議員おっしゃられるように、ただ、皆さんが来られたら全部そこに支援をする。やはり、その中には本来の生活困窮者でない方もいらっしゃるのではないかなと思いますし、真に生活困窮者として困ってあるという方であれば、そのような支援は必要だということでも、先ほど申しましたように保護課の中でも、今後、継続をして行ってまいりたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 目に見えないところでおられるんですよ。それで、できるだけ行政としてもそういう人を救っていただくようにお願いします。

そして次に、介護保険事業についてですが、介護保険第9期の整備の問題なんですけど、平成25年6月にグループホーム峰の杜を一応整備した後、全然、対馬市は整備があっていないんですよ。それで、やはりこの300人待ちというのをどうにかしてやりたいので、9期でグループホーム、認知症対応型2ユニットと、それから60床の、60歳以上のお年寄りが全部入れる、一人住まいの。軽費老人ホームC型を廃校跡なんかを利用してからしていただけたらと思ってるんですけど、どんなでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 今、待機者のことをおっしゃられましたけれども、現在、市内には19か所の入所施設が整備されております。定員総数は702人でございます。これに対しまして、昨年の7月の時点で把握している入所待機者数は288人でございます。また、短期入所生活介護施設、いわゆるショートステイのことですけれども、これが7か所で定員137人の整備がされております。直近3か月のショートステイの利用状況が月平均457人でございます。待機者よりショートステイの利用者が多い状況でございます。施設とサービス計画の支援事業者が連携を図ることによって介護サービス計画に沿ったサービス提供はできているものと考えております。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 現在、人口が2万8,317人、そのうちに60歳以上が1万3,325人なんですけど、ほとんど40%ですかね、これ、50までは行っていないんですけど、もう60以上がそれだけの人数がおるんですけど、これからだんだん増えていくんですけど。

福祉保険部長が前回のときだったと思うんですけど、私のところに、私が行ったときに聞いたときに、この問題は策定委員会に出さないと第9期で整備をするかどうかは分かりませんということを書いて帰られたんですよ。その後、こう言いましたよね。僕の力では、策定委員会には出すことはできませんから、どうなるか分かりませんちゅうことで言われたんですよ、私に。だから、その策定委員会に出してもらわんと整備はできませんからというのはどういうことなんですか。策定委員会がもう受け付けない場合は、もう整備は無理だということを書かれたんですよ。だから、その策定委員会というのがどういう委員会なんですか。これをやはり300人ぐらい待ちで市民が困っているんですけど、それを策定委員会に上げてもらわんと無理ですよちゅうことを言われましたよね、私に。僕の力では無理だと思いますと言うていかれたんですけど。それはですよ、もう全然考えていないことじゃないですか。この策定委員会に出してもらうようにあなたが努力をしてもらわないといかんとじゃないですか。僕の力では無理ですよ言うてから、言われたあの言葉が私、頭から離れませんけど。もう9期では造りませんよちゅうことを言うていったようなもんやないですか、あれは。やっぱり300人ぐらい待ちしとる人は家庭で面倒を見ているんですよ。家庭で面倒を見るのあの苦しさは分かっているんですけど、行政は。だから、策定委員会に出してもらえんと、僕の力では無理ですよという言われた理由をお答えください。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 施設整備は、最終的には、介護保険計画策定委員会で決定されますということを申し上げております。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 僕の力では駄目です。しきりませんと言うたのはどういうことですか。私、何月何日に言われたというのを覚えてます。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） そういったことを言った覚えはありませんけれども。

○議員（7番 入江 有紀君） 覚えがなかったら言わんで。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 施設整備の最終決定は介護保険の策定委員会ですということを申し上げております。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 覚えはないということは言わせませんよ。私はちゃんと聞いているんですから。何月何日に言われたということをメモしていますよ。僕の力では無理ですよと言わ

れました。だから、策定委員会に持ち込んでもらうのはどういう方法をすれば持ち込んでもらえるんですか。説明してください。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 第9期の介護保険事業計画を策定することに当たりまして、ニーズ調査とか実態調査とかを行います。それに基づいて、策定委員会の委員さんで協議してもらおうということでございます。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 策定委員会に持ち込むには、僕の力では無理ですよと言われた言葉はどういうことなんですかと。もう第9期では整備はできないということを言いよるようなものじゃないですか。お答えください。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 施設整備の最終決定は策定委員会で決定されるということでございます。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。

午前10時36分休憩

午前10時40分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 入居施設が足りないために、私は1月11日に福祉のほうにお願いしました。それで、一人住まいのお年寄りが、妹さんが今まで面倒を、バスで通って面倒を見てあったんですけど、もう具合が悪くなって面倒見れんからちゅうことでショートをお願いしたんです。そして、私もかかってから一応ショートをお願いして、迷惑をかけないようにしますからちゅうことで福祉のほうの話だったんですけど、1月11日にお願いして1月28日ぐらいに3日間引き取ってくださいと言ってきたそうです。妹さんのほうに。それで3日間は水道破裂して、家がびしょ濡れになってもう歩ける状態じゃないし、誰が面倒見るんですかと。それでも3日間は引き取ってください。じゃあ、あなたの家に引き取ってくださいと言ったそうです。妹さんが具合が悪いのに家に引き取れますか。それを心配して私にかけてきて、どうしたらいいんですかということにかけてきたもんだから、福祉の担当にも声がかかるほどどなりました。1月11日に私はお願いして、3日間帰すなら、緊急の場合は養護老人ホームを市長が用意していますよちゅうことを言っているじゃないかと。それで3日間を緊急老人ホームに入れんかと言うたんです。私。そしたら、それをいろいろもめて長い時間かかりましたけど、一応、緊急に養護老

人ホームに3日間入れてもらって、また一応ショートに帰すようにしたんですけど、そのショート先が峰だったんですよ。そしたら、峰が、その3日間、峰が預かってくれますということだった。今度、また妹さんに電話かけて、峰まで送ってくださいということになったんですよ。その動けない人。家族で送ってください。そういうことがどこにありますか。それでまた怒って、私が。そして、そういうことをバスで送っていくんですかと言うたんです、運転免許持ったん人が。そして具合が悪いと寝るとに。そういう無理なことを言ってもあるんですよ。それで私、福祉の担当にもどがかれるほどになって、そしてやっと入れてもらった。そんなふうですよ。だから、みんな今、入れなくて困りよるのに、そしてショートで3日間を養護老人ホームに預かるということをケアマネ自体が分かっていない。分かっていなくて、私が福祉に頼んで入れたものだから、入江議員、養護老人ホームに3日間は入れてもらえるようになっているんですか。市長が言うたろうち。こうこうしてね、緊急の場合は3日間入れてもらえますようちことになるとよと言うたら、僕たちケアマネは全然分かりませんでしたということだったんですよ。だから、そんなのもケアマネやなんかに通達しとってしてやらんと、家族が迷惑しているんですよ。水漏れはしよる、妹さんは病気、そこに帰す。ちょっと私は間違っていると思うんですよ。だから、ホームが足りないためにこういう問題がいっぱい起こっているんですよ。だから、できるだけ、もう300人おるんやったら150人でも入れるぐらいの施設を整備してあげて、してやらんと、やはり家で介護をして、おむつを替えたりするのは大変だと思うんですよ。だから私、これ何度もわたってから介護保険事業のことをずっと言ってきたんですけど、どうにかして対馬市も第9期で整備していただくようお願いします。

そして、市長は福祉に優しい島づくりということを書いてありますよね。それを守っていただきたいと思いますけど。どうですか、市長。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、議員おっしゃられるように、現時点での待機者は確かに288名ほどいらっしゃいます。ただし、ホーム等を造るとなると、経費的な面は別といたしまして、保険料等に跳ね返るといことで、皆さん、かなり神経を使って慎重にその判断をどの自治体もされているところであります。

そういう中、全国のサービス等を対馬市と比べてみますと、かなり施設のサービスにつきましては、全国よりも対馬のほうが、むしろ、かなり高いんですよ、1人当たりの施設数というのは。申しますと、人口10万人に対する比率でいきますと、全国は0.099であります。長崎県は0.139であります。対馬市は0.269ということで、約2倍以上、施設のサービスは整っているということで、全体の施設の利用、1人当たりに換算いたしますと、全国では3.9人に対して1人がサービスを受けられます。長崎県では、2.2人に対して1人です。対馬

市では1.6人に1人サービスが受けられるということで、全国や県全体から見ても、対馬市の施設充実数と申しましょうか、そういったところは上回っているということは御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） 介護保険に、先ほどから何度も言われますけど、介護保険に跳ね返ってくると言っておりますよね。グループホームとかそういう老健とかは入ってくるんですけど、有料のほうは全然跳ね返ってこないんですよ。だから、その有料老人ホームとかを造ればもう介護保険に跳ね返ってこないから、もうグループホーム2ユニットを造ったところで1人300円かぐらいですもんね、跳ね返ってくるのがね、介護保険に。だから、グループホームちゅうのは認知症対応型だから、やはり今から必要になると思うんですよ、これは。そうせんとグループホーム2ユニット造って、あとは有料老人ホームにすれば大丈夫だと思うんですけど。やはりこの300人近い入居待ちを介護をするということはもう大変ですから、家族にとっては本当に大変な問題です、これ。認知症の人たちが徘徊して回ったり、それを捕まえて回るとか大変なんですよ。だから、介護保険に跳ね返ってこないのは有料老人ホームだから。それと、それから認知症対応型の2ユニットぐらいやったら二、三百円ぐらい、跳ね返ってくるのは。だから、それをちょっと考えてみてください。そしてやはり、家庭の負担を少しでも減らしてやるようにお願いします。

それと今、あれが……。ヤングケアラー、ヤングケアラーの子供たちが増えているそうなんですけど、対馬市は把握していますか。何名ぐらいおるか、ヤングケアラー。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 申し訳ございません。把握しておりません。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） やはり、このヤングケアラーというのも学校にも影響していると思うんですよ。やっぱり家庭で子供たちが介護をするということは。だから、教育委員会もやはりあれして、できるだけ調べて、そのヤングケアラーや何かのそれも調べるのもさっき私が申しました事務所を開いて、そういう相談を受ければ、ヤングケアラーのことも解決できるんじゃないかと思うんですよ。だから、そのこともちょっと考えてください。補助金を調べて、女性活躍推進交付金、700万出ますので、それを調べてください。

次に、定住支援住宅の件なんですけど、私は、これは部長のところは何回も何回も通いましたよね。10回は通っていますよね。そして、やはり引っ越してくる人たちの空き家バンクのこととかで言ってきましたよね。そういうわけで佐世保から、1つの例として、佐世保から引っ越してきたんですよ。そして定住者支援住宅に入れていただいたんですけど、2年で出ないといけま

せんよね、あそこはね。そしたら、それがもう見つけられなくて仕事がないし、とうとう家族4人が生活保護になったんですよ。そして生活保護になってもう2年で住むところがないから引き上げていった状態になったんですけど。そういうことにならないように、できるだけ定住支援住宅も、これ引っ越してくるにも、対馬には巖原3戸、そして比田勝5戸、豊玉1でしょう。だから、私は何年も前から言いよるのに全然増えよらんです、これ。そしてあれ、住宅の改修費が、お金がかかるところはやりませんと言われましたよね、部長。修繕費がかかるところはしませんと。私、いっぱい県の住宅や何かがあるじゃないですかちゅうてもお金がかかりますからしませんと。少しぐらいお金がかかったところで、定住者支援住宅を増やすべきじゃないでしょうか。

それで今、6番目ですかね、長崎県では、移住が。6番目ですよ。佐世保、長崎、五島、大村、新上五島、それから対馬です。6番目だと思うんですけど、もうちょっと頑張って定住者支援住宅を増やすわけにはいかないんですか。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 先ほど議員、申されました県の空き公舎とかをどうかという話の中で、改修費が多額になると経済的にもちょっと難しいところがあるので、なるべく経費がかからなくて、いい適切な住宅があればというお話はさせていただきました。

それと今、考えているのは、定住支援住宅が9戸のうち巖原地区に3戸、それは久田地区なんですけれども、確かにそこは入居率も高い状況ですので、何とか巖原地区にあと数戸欲しいなどということは考えておまして、今、検討しているのは、定住支援住宅と別にお試し住宅というのを巖原に3戸保有しておまして、うち1戸が国分地区、あと2戸を日吉地区に保有しているんですけれども、その利用があまりないということがありまして、そこも県の住宅を無償で借りているんですけれども、そこを定住支援住宅に変更できないかということを検討しておまして、定住支援住宅にするには市の持ち物にしないとイケませんので、単価交渉に入る前の準備を今しておりますので、売買価格等の交渉がうまくいけば、令和5年度の補正の時期は明言はできませんけれども、早い時期に補正予算で計上できるように努力してまいります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 7番、入江有紀君。

○議員（7番 入江 有紀君） それに、空き家バンクに登録してある家を私、回ってみたんですよ。ほとんど空き家バンク見て回ったんですけど、空き家バンクというのは、人間が住めそうな家はないです。もうびっくりしました。あんなところを、人間が住めんようなところは空き家バンクには断りませんか。あれできないんですか。私ですね、もう本当情けない。こんなところに人が移住してくるわけがないじゃないですか。そやけ、市のほうも空き家バンクに申込みがきたら選ぶことはできないんですか、ここは無理ですよとか。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 申請があって全てを登録しているわけではございませんけれども、なかなか登録数が増えないということで課内で協議はしているんですけども、現在の状況で質が悪いということも承知しておりますし、登録期間が2年間という期間がございますので、2年間全く交渉が成立しなかったら登録を解除するというので進めておりますので、今後、登録することについては課内、部内でよく検討して進めてまいりたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 時間が来ておりますので、簡単に。

○議員（7番 入江 有紀君） よろしく願いしておきます。

以上です。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 再開を11時10分からといたします。

午前10時57分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。入江有紀君から早退の届出がっております。

引き続き、市政一般質問を行います。1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 皆様、おはようございます。1番議員の糸瀬雅之でございます。令和5年第1回の定例会が2月21日から始まっております。本日から一般質問となりました。今年は、対馬市にとりまして将来の方向性を決めるべく重要な1年となると思います。今、対馬市の最大の課題といえば、人口減少、様々な物価や資材の高騰の影響による経済の落ち込みではないでしょうか。2月25日から週末限定で釜山・比田勝間でフェリーが3年ぶりに就航いたしておりますので、少しでも対馬の経済が上向きになることを期待したいと思っております。

さて、対馬市は、来年3月に市制20周年を迎えます。同じく3月には、対馬市長選挙がございます。そして今、対馬市民が関心を持ちつつある高レベル放射性廃棄物最終処分場の文献調査の受入れ問題など様々な話題がございます。我々19名の議員をはじめ、行政、市民が対馬の将来をみんなで考え議論し、何事にもスピード感を持ち、様々な問題点を解決に向けて取り組まなくてはなりません。これから先、1年間で将来の対馬が明るく期待が膨らむ活気のある島づくりを目指し、私も精いっぱい働きたいと思っております。

今回の一般質問のテーマは、様々な職場の人材不足による問題点を対馬市が今後どのように改善し、働き方改革を進めていくのか質問をいたしたいと思っております。